

『テニピン』実施レポート

学校名	盛岡市立城南小学校	実施日	2024年2月
担当教員	石井佳織	実施学年/人数	6年生/35人

1. 学習指導計画

時数	1	2	3	4	5	6	7	8
ねらい	・テニピンのゲームの仕方を知る。		・相手から送られてきたボールを返球する。 ・空いている空間を意識してゲームをする。		・勝つための作戦を考えてゲームをする。		・大会を行う。 ・学習を振り返る。	
学習時間	0	[テニピン)を知る] ・VTR視聴 ・感想交流	[セットメニュー] ・ペアでしりとりにラリー 30回 ・ペアでキャッチ&ショットラリー 30回 ・ペアで直接ラリー 10回以上					大会(二日目) 大会(二日目) ・振り返り
	10	[課題把握] テニピンを知ろう	[課題把握] ラリーを続けるにはどう打てばよいか。	[課題把握] どこのスペースに打てば得点になるか	[課題把握] ボールがどこに落ちるか予測して移動しよう	[課題把握] どのように返球を打てば得点につながるか		
	20	[ボールに慣れる] ・ペアでしりとりにラリー ・ペアでキャッチ&ショットラリー ・ペアで直接ラリー	[打ち方を知る] ・自己の課題に沿った課題別練習を行う。 A キャッチ&ショット(動き方・打ち方) B 中心をねらえ(的当て・ベットのボール当て) C 続けてみよう(ラリーを続ける)		[ゲーム①] ・ゲーム分析(空間)	[ゲーム①] ・ゲーム分析(空間)		
	30			[相談タイム] ・どこに打てば得点につながりやすいか	[相談タイム] ・どこに打つと得点につながりやすいか			
	40	[試しのゲームを行う](8チーム×4コート) ・ゲーム ・感想交流 →単元計画を立てる。	[まとめのゲーム] ・ゲーム分析(打ち方) ・浅いボールや深いボールの時、どのように打ち返せばよいか		[ゲーム②まとめのゲーム] ・ゲーム分析(空間)	[ゲーム②まとめのゲーム] ・ゲーム分析(作戦)		
45	[振り返り](チームで)⇒(個人で) ・テニピンの面白さ、友達のよかった動き、自分やチームの成果、課題、次時への展望等							

2. 授業の実際の様子

「テニピン」は全員の子供たちにとって初めてのスポーツだったので、みんな同じスタートラインから始めることができた。はじめは遊び感覚でラケットに慣れながら徐々にゲーム形式にした。子供たちの必要感に応じて徐々に自分たちでルールを作っていた。点数を入れると自然と男女でハイタッチをしていたり、守備位置を分担したりと協力しながら楽しむ様子が見られた。

【例】

- ・サーブを同じ人が連続して打っている→話し合い→二人が交代で打つ
- ・上から打っている人と下から打っている人がいる→話し合い→どちらもよい
- ・コートが狭くてすぐにアウトになる→話し合い→アウトラインを広げる
- ・アウトかどうかを見極める人が必要→話し合い→審判役を決める



下から打っている児童



点数を決めてハイタッチする児童

3. 授業づくりの工夫・指導の工夫

- 先に教師がすべてのルールを伝えずに、子供たちがゲームをする毎に、困ったことやみんなに聞きたいことを共有して、ルール作りをしていった。ルールを作っていくのと同時に、作戦も練るようになるので、どのように打ったら得点につながるのか、またどのように守ったらボールを返せるのか、自分たちで考えながら楽しむことができた。
- ネットも高さは変えられるようにして、子供たちが高さを調整しながらゲームを行った。ゲームに出る子供たちの身長に合わせて若干調整しながら高さを決めていた。
- 男女混合4人グループで行い、ゲームの前後半に出るメンバーは子供たちが相談して決めた。男女で励ましあって協力する姿が見られ、学級経営の視点からも効果的であった。

4. 感想

テニピンという初めてのスポーツを通して子供たちが協力して楽しむ様子が多く見られた。スポーツの得意不得意に関わらず、どの子も楽しめている様子だった。新しい種目を体育で取り入れることは、子供たちの意欲や考える力を高めるためにも大変効果的であると感じた。

今回、このような学びの機会を頂き、ありがとうございました。